

果樹農業の課題と今後の方向（案）

産地・担い手対策の課題と今後の方向

果樹農業の現状と課題

●果樹農業の特徴

- △多くが中山間傾斜地に立地 ⇒ 作業が重労働
- △収穫等機械化が困難な作業が多い ⇒ 労働集約的
- △未収益期間がある ⇒ 経営転換が容易でない

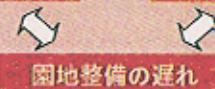
●果樹経営

- △60歳以上の経営者が5割超 ⇒ 高齢化
- △一部で規模拡大が進んでいるが、1ha以下の層が全農家の85%と小規模農家が主流 ⇒ 規模拡大が必要
- △果樹単一経営が多数を占めるが、主業農家の所得は4百万円程度 ⇒ 経営基盤が脆弱

●果樹産地

- ・担い手が不明確、生産・経営基盤が脆弱

農地流動化の遅れ ⇔ 労働力の不足



園地整備の遅れ

- ・輸入果実・加工品の増加
- ・消費構造の変化(食の簡便化、他食品との競合)

●果樹生産

- △農家数の減少
- △栽培面積の減少
- △生産量の減少

耕作放棄地・廃園の増加



園地集積に結びついていない

産地・担い手対策の方向

△**基本方針**
果樹産地の構造改革の推進、高品質果実の消費者への供給

果樹産地構造改革計画(仮称)

果樹農業振興基本方針(国)

↓
果樹農業振興計画(県)

産地協議会
・JA
・市町村
・生産者
・普及センター
・農業委員会
等

策定

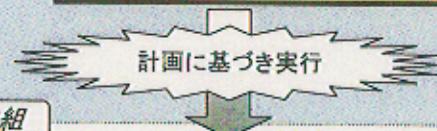
目標

- △目指すべき産地の姿の明確化
(例) 量販店との契約による低コスト・安定的な生産
高品質化の追求による高価格販売の推進
観光果樹園や直販による農村都市交流 等

具体的な戦略として

- △産地の核となる担い手の明確化
※ 認定農業者制度を基本としつつ、実態を踏まえ産地が担い手を明確化
60代までの主業農家を中心としつつ、「新規就農者」、「販売を一体的に行う等法人化を目指す組織」等、今後継続して果樹農業を担うものについても配慮

- △担い手以外の農業者の役割の明確化
- △生産の主体となる園地の明確化、園地集積への取組方法、基盤整備のあり方、労働力確保方策
- △消費者ニーズを踏まえた販売戦略の明確化 等



産地に必要な取組

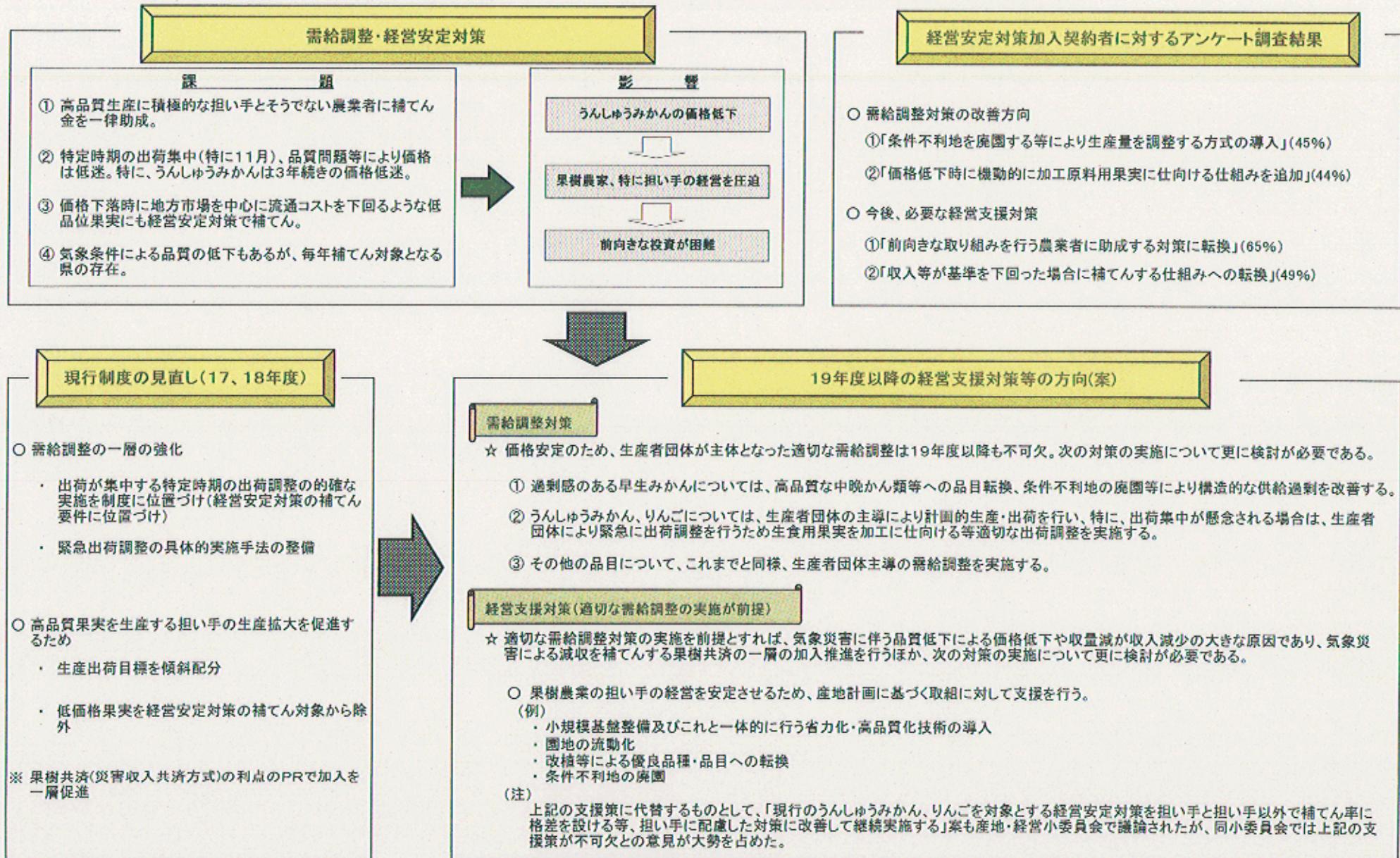
- △産地の再編
・園地の流動化
・園地の基盤整備
・労働力調整システムの確立

担い手への
集積・育成

- △需要に見合った生産構造(適量・多品目化)への転換
・優良品目・品種への転換、不良園地の廃園推進

構造改革
の推進

需給調整・経営安定対策の課題と今後の方向



果実の流通・加工・消費の現状・課題と今後の方向

現状・課題

流通

【流通コストの低減】

- 流通経費が小売価格の6割を占める
- 取引の電子化が促進されているがメリットを活かすまでには至っていない

【輸出の促進】

- 輸出は増加しているが、産地が個別に対応
- 低価格の他国産との競合が一層激化

加工

- 果実加工品は、生食用果実の需給調整に一定の役割を果たしているものの、生産量は大幅に減少

- 果汁工場の経営は、厳しい状況

消費

- 果実の摂取量は目標を下回り、特に若年層の摂取量が少ない
- 量販店のシェアの高まりと流通形態の多様化
- 果実を題材とした食育の推進

今後の方向

★外観重視の出荷規格の簡素化等

- ★通いコンテナ等の流通システムの導入を推進
- ★取引の電子化により取引情報と物流の効率化を推進

★東アジアの富裕層等を対象に国産果実の輸出を強力に推進

- ★輸出に必要な情報の共有化、新たな市場開拓と戦略的な輸出体制の整備を推進

★ストレート果汁等の高品質製品の生産拡大による国産果汁等の消費拡大

- ★果汁工場のコスト低減等、合理化の推進
- ★原料原産地の義務表示対象化を引き続き検討し、当該関係業者が一体となった強調表示を推進
- ★長期取引契約を引き続き推進

★「毎日くだもの200g運動」の効果的な推進

- ★流通ルートの多様化に対応した販売戦略の構築、ブランド品等の商品販売、消費者への情報提供の推進
- ★学校給食への導入を通じ、国産果実の定着化を推進



「消費者ニーズを踏まえ、関連産業と連携」